
桜花幻影

Granxie(エドワード)

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

桜花幻影

【Nコード】

N3982S

【作者名】

エドワード
Granxie

【あらすじ】

今年も花見の時期がやってきた
ミリアは毎年、花見の時期だけはいない・・・
話では母方の実家・・・アメリカに行っているらしい
その間の俺は安堵と寂しさで一人花見をする

（前書き）

これを読む前に

俺の彼女はツンデレお嬢シリーズの

「クリスマス」と「バレンタイン」を読む事をお勧めします

理由は設定とかが分からない可能性があるため

今年も花見の時期がやってきた

ミリアは毎年、花見の時期だけはいない・・・

話では母方の実家・・・アメリカに行っているらしい

その間の俺は安堵と寂しさで一人花見をする

20XX年4月○日

今年もミリアはいない

だから、俺は誰も来ない場所で桜を見ながら過ごす

悠一「ミリア・・・」

俺は桜の根元に寝そべり空を見ながら俺はミリアの事を考える

それは退屈で――

悠一「・・・ん？」

俺は見慣れない場所にいた

辺りは満開の桜だけが広がる夜の世界

悠一「ここは・・・何処だ・・・？」

人気は無く俺だけが何処かに取り残された気分だ

風が吹いて辺りの桜を揺らす

ザワザワと響く音は俺を拒んでいるかのようにも聞こえる

悠一「気味悪いな・・・」

そう言いながらも足は知らず知らずのうちに奥へと進んでいる

かなり奥まで来ただろうか・・・

足が疲れ精神的にもおかしくなり始めた頃、見慣れた後姿が現れる

悠一「ミリア?!」

その後姿はミリアの後姿に似ている

けれども、すぐに走って逃げてしまった

俺は追いかける

が、すぐに見失ってしまった

探しつづけたが見つからない

悠一「何処に行ったんだ・・・」

辺りを見渡しているとまた風が吹く

今度はかなり強く、目を開けていられない

風が止むと目の前にはまたあの後姿があった

悠一「ミリア！！」

俺は叫んだ

が、再び強い風が吹いて聞こえなかったのだろうか・・・

ミリアに似た後姿はまた消えていた

俺は苛立ちから近くの桜を殴りつける

殴りつけるのと同時に頬に何かの感触があった

悠一「・・・なんで・・・泣いてるんだ・・・」

俺の頬を伝うのは涙だった

涙を拭い俺はあの後姿を探す

彷徨う俺は何かに飢えている感じだった

それが何かは俺には分からない・・・

それでも、ただ無我夢中はミリアに似た後姿を探した

強い風が吹き桜の花弁が舞う

悠一「ミリア・・・ミリアあああああああああ！！！！」

俺はその中で叫びながら目覚める

辺りは夕暮れのいつもの街並み

俺は夢だった事を知った

それと同時にミリアの声が聞きたくなつて

ポケットから携帯を取り出し電話する

ミリア「悠一？」

ミリアの声を聞いた俺は無言のまま泣いていた
ミリア「どうしたの？」

心配そうなミリアの声

俺は涙を拭う

悠一「あゝ・・・声が聞きたくなつた・・・」

照れと恥ずかしさで声が小さくなつてしまった

ミリア「え？」

聞こえていなかったらしい

悠一「だから、ミリアの声が聞きたくなつた！」

俺はもう一度、今度は聞こえるように言った

ミリア「ふふっ、明日には帰るから待つてなさいよ」

ミリアからは笑い声と共に明日には帰つてくる事を教えられた

俺は嬉しくて叫びそうになつた

それを堪えてミリアとささやかな電話を楽しんだ

長いようで短かつたけれど、その間だけは遠く離れていても近くに
感じた

結局、俺はミリアがいないとダメらしい・・・

それでもあの夢は俺だけが知る

秘密の桜が見せた俺の心の幻影だったのかも知れない・・・

（後書き）

はい、俺の彼女はツンデレお嬢シリーズの3作品目です
今回は悠一オンリーでお送りしています
タイトルが某ゲームの曲名なのは気にせずに（内容的にタイトルが
ってだけなので

今回はかなりギリギリで書きました；；
短いかも知れませんが今後も続くので
次回をお楽しみに！って感じです

悠一がいたのは悠一しか知らない大桜1本場所
悠一以外は誰も来ません
と言うよりこれません（道に迷うので

この桜は特別なので今後もう少しだけ出るかも・・・知れませんが
いつそ結婚って方向でもいいのですが
それはまだまだ先の話って事で

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3982s/>

桜花幻影

2011年10月8日12時25分発行